

○計画期間:令和6年4月～令和11年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成21年3月に国の認定を受けた第1期計画（平成21年4月～平成26年3月）を皮切りに、第2期計画（平成26年4月～平成31年3月）、第3期計画（市任意計画・平成31年4月～令和6年3月）と通算15年間、「城下町の快適な暮らしづくり」、「匠の技とおもてなしの商店街づくり」、「市民共楽のふるさとづくり」の3本柱を基本方針として中心市街地の活性化に取り組んできた。

令和6年4月からは、国の認定を受けた第4期計画（令和6年4月～令和11年3月）を策定し、過去から継続する問題点や今般の情勢から生じた新たな課題に対応するため、さまざまな事業を展開している。

ハード面では、中心市街地の中央に位置する市役所の隣地に「健康増進」、「子育て支援」、「生きがいづくり」などの機能を備えた複合施設の整備を進めるとともに、令和7年度には立体駐車場が完成した。また、国指定史跡である小峰城跡では、より多くの方々に本市の歴史・文化を堪能していただくため、かつて城の二之丸と本丸を結んでいた清水門の復元工事が順調に進捗している。さらには、令和7年度に着工した中町地所跡地住宅整備事業が令和8年度に完成することから、中心市街地の回遊性及び入居人口の向上が期待される。

次にソフト面では、清水門復元に向けて、多くの方から賛同いただき浄財を賜った「小峰城一石城主」プロジェクトや、清水門に使用する瓦に名前やメッセージを書き込む「瓦記名会」などを行った。また、中町小路楽蔵では入居テナントや地元商店と連携したイベントを、マイタウン白河では季節に応じた装飾の展示や子どもの遊び場の運営を行い、中心市街地の賑わいの維持向上を図った。

一方で、依然として平日歩行者通行量と事業所数については実績と目標値に乖離があることから、今後は、行政と民間の取組をこれまで以上に連携させるほか、新たな試みなどを検討のうえ、中心市街地の活性化を図っていく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度10月1日)

(中心市街地 区域)	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
人口	2,306	2,240	2,212	—	—	—
人口増減数		▲66	▲28	—	—	—
自然増減数		▲46	▲33	—	—	—

社会増減数		▲26	5	—	—	—
転入者数		141	156	—	—	—

※届出日との関係から、必ずしも「人口増減数＝自然増減数＋社会増減数」とならない。

(2) 地価

(中心市街地)		令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
住宅地	南町12番 (600m)	33,700	34,000	34,000	—	—	—
前年度比			300	0			
商業地	大手町14番6外 (200m)	47,700	47,700	47,700	—	—	—
前年度比			0	0			

※カッコ内は、白河駅からの距離を示している。

2. 令和7年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第4期中心市街地活性化基本計画の2年目となる令和7年度は、ハード面では複合施設整備事業における立体駐車場の完成、清水門復元工事の順調な進捗、中町地所跡地住宅整備事業の着工など、今後の中心市街地の回遊性向上及び居住人口の増加に向けた基盤整備が着実に進められた年度であった。また、中町小路楽蔵やマイタウン白河における賑わい創出の取組み、商店街活性化事業、まちなび白河等を活用した情報発信など、ソフト面においても継続的な取組みが行われており、中心市街地活性化に向けた一定の成果が見られた。

目標ごとに見ると、まず、「街なか居住の推進」については、市全域に対する中心市街地の居住人口の割合が前年度と同数の3.97%となり、目標値及び基準値を下回る状況が続いている。中心市街地では人口減少の傾向が依然として見られるものの、人口増減数及び自然増減数の減少幅が縮小し、社会増減が増加に転じたことは前向きな兆しである。加えて、中町地所跡地住宅整備事業が進捗し、令和8年度の完成が予定されていること、また住宅取得に絞った新たな補助制度の創設が予定されていることから、今後の居住人口の増加に期待が持てる。引き続き、若年層や子育て世代をはじめ、多様な世代が中心市街地に住み続けたいとなる住環境の整備と、空き家・空き地等の利活用を一体的に進める必要があると考える。

次に、「魅力ある商店街の形成」については、小売業及び一般飲食店事業所数が前年度と同数の154事業所となり、目標値には届いていない状況である。一方で、新規開業や昼営業再開の動きが見られるほか、既存店舗の閉業後、空き店舗となった物件に対して比較的短期間で別の新規開業事業者が入居する事例も見られることから、中心市街地に

おける空き店舗の商業的ニーズは一定程度存在しているものと考えられる。また、まちなかチャレンジ応援事業では、令和6年度、令和7年度ともに各年度7件の活用があり、店舗・住宅セパレート改修支援の活用も見られるなど、事業者ニーズに沿った支援が進められている。今後は、小売業及び飲食業の新規出店につながるよう、空き店舗と創業希望者のマッチング、事業承継支援、既存店舗の魅力向上支援を一層強化していく必要があると考える。

次に、「誰もが集い、楽しめるまちづくり」については、平日歩行者通行量が前年度から738人増加し、2,954人／日となったことは評価できる。調査地点8地点のうち6地点で増加しており、しらかわ観光ステーションへの来館者や小峰城を訪れた観光客の流れが、まちなかへ波及し始めているものと考えられる。また、季節ごとのイベント開催や楽蔵の活用促進、歴史的建造物の活用に向けた取組みなどにより、中心市街地を訪れるきっかけづくりが進められている。今後は、清水門、複合施設、しらかわ観光ステーション、えきかふえ SHIRAKAWA、楽蔵、歴史的建造物など、点在する拠点を線として結び、中心市街地における日常的な回遊につなげていくことが重要である。あわせて、デジタルによる情報発信やイベント連携、飲食・小売店舗への誘導策を組み合わせながら、歩いて楽しめる中心市街地の形成を図る必要があると考える。

以上のように、令和7年度は3つの目標指標のうち、居住人口割合及び事業所数については依然として課題が残るものの、平日歩行者通行量の増加や各種ハード整備の進捗、創業・空き店舗対策の継続など、今後の活性化につながる動きも見られた年度であった。今後とも、第4期計画の目標達成に向けて、市当局、商工会議所、まちづくり会社、商店街、民間事業者、関係団体がこれまで以上に連携し、「住む・働く・訪れる」それぞれの視点から、中心市街地の魅力向上と持続的な賑わい創出に取り組んでいく必要があると考える。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
街なか居住の推進	市全域に対する中心市街地の居住人口の割合（％）	4.10% (R4)	4.14%	3.97%	C	A	A
魅力ある商店街の形成	小売業及び一般飲食店事業所数（事業所）	161 事業所 (R4)	165 事業所	154 事業所	C	A	A
誰もが集い、楽しめるまちづくり	平日歩行者通行量（人／日）	2,094 人／日 (R4)	4,541 人／日	2,954 人／日	B	A	A

<基準値からの改善状況（※1）>

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類（※2）>

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「<基準値からの改善状況（※1）>」、<目標達成に関する見通しの分類（※2）>ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「市全域に対する中心市街地の居住人口の割合」については、コロナ禍となった令和2年度以降、減少傾向である。一方で、これまでの計画で整備された集合住宅の入居率は約80％以上と堅調に推移しており、令和8年度初めに完成を迎える「中町地所跡地住宅」でも同様の入居率が期待できることから、目標達成を見込める状況である。

「小売業及び一般飲食店の事業所数」については、前年度の実績値と同数になった。

「まちなかチャレンジ応援事業」等の活用状況が年々増加していることや、令和7年度は前年に比べて「空き店舗バンク」の成約の動きが目立っていることから、来年度以降の数値改善が見込まれる。

「平日歩行者通行量」については、前年度に比べ約33％向上している。個別の地点で見ると、「白河駅前地点」において前年度の約2倍（令和5年度と比較すると約4倍）となっている。これは、令和5年度に整備した「しらかわ観光ステーション」への入館者数が堅調であったことや、小峰城を訪れた観光客の流れがまちなかへ波及しているものと考えられる。また令和8年度には小峰城の清水門、令和9年度には複合施設の完成が

控えており、回遊性の向上が一層図られると考える。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

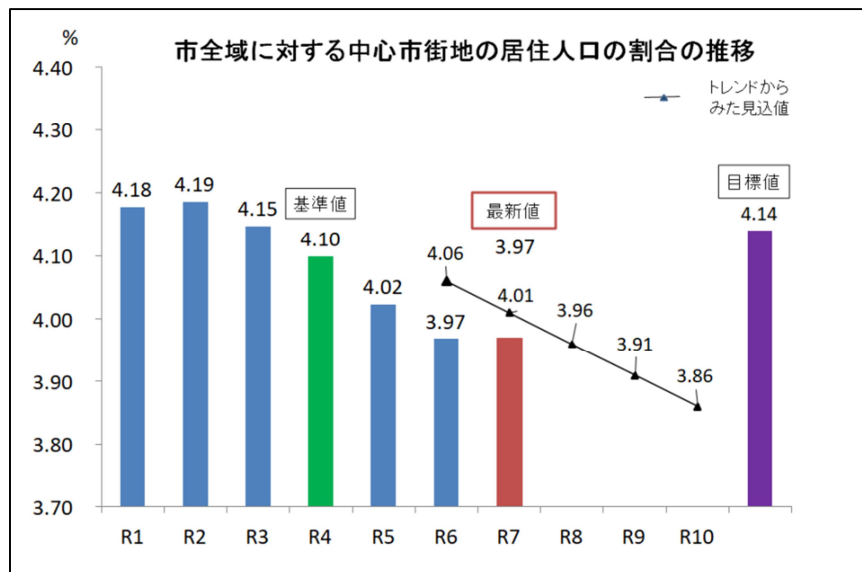
前回フォローアップから変更なし

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市全域に対する中心市街地の居住人口の割合 (%)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R4	4.10% (基準年値)
R5	4.02%
R6	3.97%
R7	3.97%
R8	
R9	
R10	4.14% (目標値)

※調査方法：市全域の居住人口は国勢調査から、中心市街地の居住人口は住民基本台帳により調査

※調査月：令和7年10月

※調査主体：白河市

※調査対象：国勢調査における市全域の居住者及び住民基本台帳における中心市街地の居住者

〈分析内容〉

居住人口の割合の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進んでいる。

しかしながら、令和7年度は、前年度の実績値から増減なしで、目標値及び本計画策定時の基準値をもとにしたトレンド見込値(4.01)を下回る結果となった。市全体として人口の減少が続いているなか、中心市街地ではその傾向がより顕著に表れている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町地所跡地住宅整備事業（(株)白岩工務店）【実施中】

事業実施期間	令和6年度～令和8年度
事業概要	中町地所跡地に、地上4階建ての集合住宅を整備し、20戸程度を賃貸する。
国の支援措置名	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（令和6年

及び支援期間	度～令和 7 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度は建設工事に着手した。なお、本事業の完了により、63 人 (0.2%) の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和 8 年度始めに完成する予定である。
②. 郭内地区共同住宅整備事業（敦記念 田口病院）【実施中】	
事業実施期間	令和 7 年度～令和 9 年度
事業概要	田口病院跡地に、地上 3 階建ての集合住宅（1 階は医療施設）を整備し、10 戸程度を賃貸する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（令和 8 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度は事業者と地権者の間で土地の利用や事業計画について整理を行った。なお、本事業の完了により、25 人 (0.1%) の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和 9 年の着工に向けて、事業者と密に連携を取りながら、計画を進めていく。
③. 子育て世代賃貸住宅家賃補助事業（白河市）【済】	
事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度
事業概要	中心市街地の賃貸住宅等に新規に転入する若年夫婦世帯等に対して家賃を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標件数】3 件 【活用件数】5 件 前年度からの継続 1 件に加え、新規 4 件の活用があった。目標であった 3 件を上回った。
事業の今後について	中心市街地への定住につながるよう、住宅の取得に絞った補助金（街なか居住促進事業）を令和 8 年度に新設し、より効果的に事業を進めていく。
④. 来てしらかわ住宅取得支援事業（白河市）【実施中】	
事業実施期間	平成 30 年度～
事業概要	移住・定住の促進のため、「県外から市内へ」「市外から市内へ」移住するために住宅を取得した場合、取得費用の一部を助成する。また、中心市街地に移住する場合は補助金の加算がある。※県外からの移住は、福島県の補助と併用となる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標件数】50 件 【活用件数】48 件 ※中心市街地への移住 1 件
事業の今後について	申請者からのアンケート等を踏まえ、市外からの転入者及

いて	び定住者の増加につながるよう事業を継続していく。
⑤. 新婚新生活支援事業（白河市）【実施中】	
事業実施期間	令和元年度～
事業概要	若者の定住促進及び少子化対策の促進を図ることを目的として、結婚に伴う新婚生活のスタートアップに係る経費（住宅取得、家賃、敷金、礼金、手数料及び引越費用）の一部を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	地域少子化対策重点推進交付金（こども家庭庁）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標件数】２０件 【活用件数】１７件
事業の今後について	申請者からのアンケート等を踏まえ、市内への若年層の定住及び出生率の増加につながるよう事業を継続していく。
⑥. お試し住宅まちなかベース運営事業（白河市）【実施中】	
事業実施期間	令和２９年度～
事業概要	本市への移住を検討している市外在住者に対し、日常生活を体験できる機会を提供するための「お試し住宅」を４施設整備。移住を推進し、地域の活性化を目的とする事業。 ※４施設のうち１施設が中心市街地に該当
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標利用日数（年間）】５８０日（４施設合計） 【利用日数（年間）】６２１日（４施設合計） ※うち中心市街地での利用日数 ２６２日
事業の今後について	利用者からのアンケート等を参考に、市外からの移住・定住者の増加につながるよう事業を継続していく。
⑦. 移住者支援就業促進事業（白河市）【実施中】	
事業実施期間	令和元年度～
事業概要	本市への移住・定住の促進及び中小企業等における人手不足の解消に資するため、福島県と共同して東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）から本市に移住した方が要件を満たす場合に支援金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	地域未来交付金（内閣府）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標件数】６件 【活用件数】４件 ※うち中心市街地での利用件数 ０日
事業の今後について	利用者からのアンケート等を踏まえ、東京圏からの移住・定住者の増加につながるよう事業を継続していく。

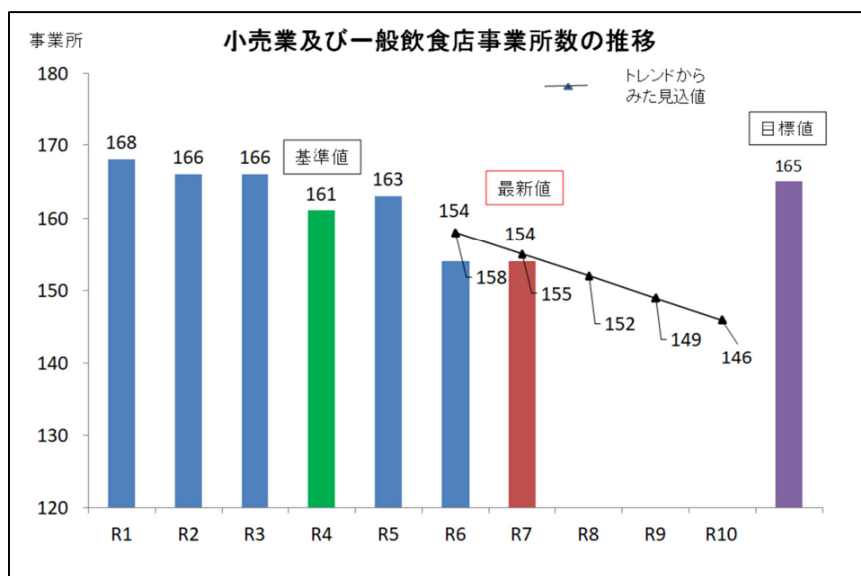
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度は、人口増減数及び自然増減数の減少幅が小さくなり、社会増減は増加に転じた。このことから引き続き、「中町地所跡地住宅整備事業」や「郭内地区共同住宅整備事業」、「来てしらかわ」、「新婚新生活支援事業」、「お試し住宅まちなかベース運営事業」、「移住者支援就業促進事業」及び、令和8年度より開始する「街なか居住促進事業」などと連携することで、目標達成が可能と見込んでいる。

(2)「小売業及び一般飲食店事業所数（事業所）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.72 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R4	161 事業所 (基準年値)
R5	163 事業所
R6	154 事業所
R7	154 事業所
R8	
R9	
R10	165 事業所 (目標値)

※調査方法：毎年度、増減を実地調査している。調査対象者は、事業所・企業統計から、日本標準産業分類（平成14年3月改定）に規定する「J卸売・小売業」のうち、「55～60」に規定する各種小売業に該当するもの、また、「M飲食業・宿泊業」のうち、「70一般飲食店」に該当するもの

※調査月：令和7年12月

※調査主体：白河市

※調査対象：中心市街地における事業所

〈分析内容〉

令和7年度は、新規開業や昼営業再開の動きが見られた一方で、閉業や休業、区域外への移転、昼営業の終了もあり、店舗数は前年度と増減なしとなった。

また、閉業後に短期間で新規開業するケースも確認されており、既存不動産の有効活用と商業機能の集積が課題となっていることから、引続き商工会議所など関係機関と密に連携を図りながら、空き店舗の活用を進めていく。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなかチャレンジ応援事業（白河市）【実施中】

事業実施期間	令和6年度～令和10年度
--------	--------------

事業概要	まちなかの空き家や空き店舗を活用した新規創業や既存事業者の事業継承を支援するため、店舗の改修費等の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年度～令和１０年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】８件 【最新値】７件 前事業の「空き店舗を活用したまちなか再生支援事業」では、令和４年度から令和５年度までの２年間で７件の活用だったが、本事業になった令和６年度、令和７年度においては、各年度７件ずつ活用があった。また、令和７年度に新たに追加した「店舗・住宅セパレート改修支援」の活用もあり、事業者のニーズに沿った事業展開ができていると考えられる。
事業の今後について	令和８年度は補助率や補助上限額の見直しを行い、目標指標である小売業及び飲食サービス業の開設増加につなげていく。

② 本町・北裏「モトキタ」エリアリノベーション事業（（株）楽市白河）【実施中】

事業実施期間	令和４年度～
事業概要	本町と本町北裏のエリアリノベーションを推進し、多世代交流やまちなか創業を支援する拠点として「KITAURA BASE」を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	本事業については、本町・本町北裏（モトキタ）エリアの活性化に向けた構想検討及び関係者協議を継続している。
事業の今後について	本町・本町北裏（モトキタ）エリアにおけるエリアリノベーションの実現に向け、引き続き関係者と検討を進める。

③ 起業家支援・育成事業（白河商工会議所）【実施中】

事業実施期間	平成２５年度～
事業概要	起業に興味のある方、起業を準備している方、起業したが経営面で不安のある方などを対象に、起業に必要な「マインド」、「知識」、「ノウハウ」を習得する研修講座を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【参加人数】２４人 「しらかわ創業塾」と題し、６月（前編）と１０月（後編）の計２回開催した。
事業の今後について	事業開催時に実施するアンケート結果などを踏まえ、より効果的な支援となるよう検討し、新規創業の実現につなげていく。

④. 商店街デジタル活用集客支援事業（白河商工会議所）【実施中】

事業実施期間	令和４年度～
事業概要	デジタルを活用し、中心商店街に集客を促す事業を実施する。併せて、今後商品のこだわりなどを紹介する「EC サイト」を立ち上げを支援し、売り上げ拡大を目指す事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【参加人数】３１人 テーマごとに１０月から１１月までで計３回開催し、また、セミナー開催後に開催したアフターフォロー個別相談会では、合計２人が参加した。
事業の今後について	情報発信の手法を工夫して周知することで、商店街の魅力を効果的に伝えたとともに、EC サイトの立上げにつながる事業を進めていく。

⑤. アプリを活用した商店等魅力発信サポート事業（（株）楽市白河）【実施中】

事業実施期間	令和２年度～
事業概要	新型コロナウイルスにより影響を受けた商店等の活力を取り戻すため、LINE アプリの「まちなび白河」を活用し、商店の魅力と中心市街地のイベント情報を発信する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（株）楽市白河が運営するメッセージアプリのアカウント「まちなび白河」において、毎月第２・第４木曜日に中心市街地にある店舗の紹介やイベント情報の発信を行った。当アカウントでは、令和８年３月時点で市全体人口の３５％に及ぶ、約２０,０００人の登録者数となっている また、令和７年度は、中心市街地におけるイベントの主体者から情報を収集するほか、市で更新する「まちづくりブログ（ https://shirakawacity-machiblo.blogspot.com/ ）」と連携して、情報の発信を行った。
事業の今後について	引き続きさらなる登録者数の増加に取り組むことで効果的な情報発信につなげていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

これまでまちなかチャレンジ応援事業の活用件数は年々増加傾向だった一方で、目標指数となる小売業及び飲食業以外の開設も、６件中２件（Ｒ７年度新規全体では１１件中５件）と目立っていた。

令和８年度からは、他業種との差別化のため小売業及び飲食業の補助率及び補助額を引き上げることから、小売業及び飲食店の件数の増加が見込まれる。

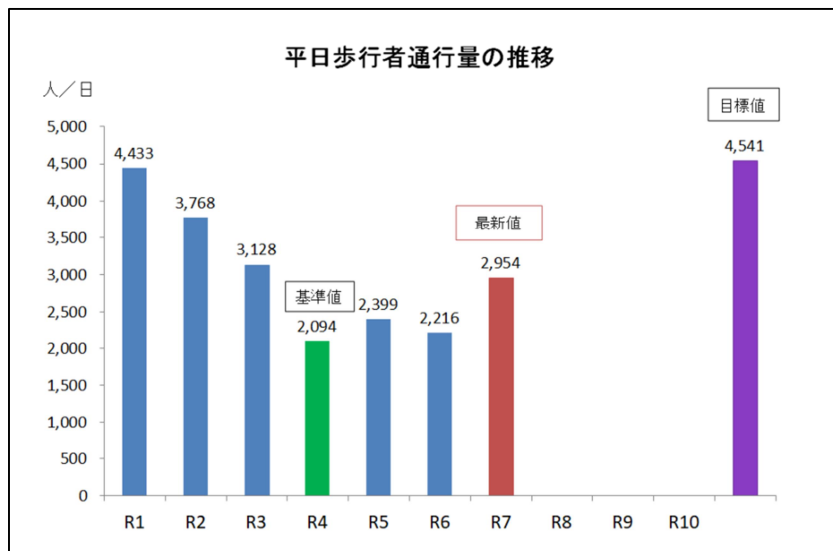
加えて、新規事業者のニーズに合わせた支援として、セミナーや創業塾、商店の魅力

発信などの将来的に事業所の増加につながる取組を行うことで、目標値達成を目指す。

(3)「平日歩行者通行量（人／日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R4	2,094 人/日 (基準年値)
R5	2,399 人/日
R6	2,216 人/日
R7	2,954 人/日
R8	
R9	
R10	4,541 人/日 (目標値)

※調査方法：毎年10月の平日10時～18時に中心市街地8地点で計測

※調査月：令和7年10月

※調査主体：白河市

※調査対象：中心市街地8地点における、平日10時～18時までの歩行者数



(単位：人)

	令和５年度 (計画前年度)	令和６年度 (１年目)	令和７年度 (２年目)	令和８年度 (３年目)	令和９年度 (４年目)	令和１０年度 (５年目)
地点Ａ	133	100	147			
地点Ｂ	296	306	260			
地点Ｃ	164	303	608			
地点Ｄ	586	137	93			
地点Ｅ	252	187	378			
地点Ｆ	87	52	117			
地点Ｇ	378	285	392			
地点Ｈ	503	846	959			
合計	2,399	2,216	2,954			

〈分析内容〉

令和７年度は、前年度に比べて調査地点８地点のうち６地点で増加するなど、全体では７３８人/日の増加となった。過去３年度に比べ、天候に恵まれたことや、本市にゆかりのある大河ドラマ「べらぼう」の放映による効果が大きく寄与したものと考えられる。

また、減少した割合が高かった地点では、近隣にあった老舗パン屋や銀行の移転による影響が大きいものと推察される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 複合施設整備事業（白河市）【実施中】

事業実施期間	令和６年度～令和８年度
事業概要	市庁舎に隣接する市民会館跡地に、少子高齢化や人口減少に対応した複合的な機能を有する施設や市民駐車場を整備し、公共施設の複合化・多機能集約化による市民サービスの維持向上を図るとともに、新たな賑わいを創出し、中心市街地の活性化を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（令和３年度～令和８年度） 都市構造再編集中支援事業（高次都市施設・地域生活基盤施設）（令和３年度～令和８年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和７年度は立体駐車場が完成し、複合施設本体の建設工事に着手した。駐車場は中心市街地来訪者に開放しており、中心市街地の活性化につながっている。
事業の今後について	令和９年度初めに複合施設本体の建設工事が完了し、運用が開始される予定である。

②. よみがえれ！歴史的建築物活用事業（白河市）【実施中】

事業実施期間	令和５年度～令和９年度
--------	-------------

事業概要	市の歴史的建造物に指定されている「大木家住宅建造物群」を起点に、分散型ホテルや飲食店等の店舗を備えた地域交流拠点を整備し、市内外からの観光客の誘客によるまちの回遊性や歴史的建造物の利活用を面的に拡げること、歴史的風致の維持と地域の活性化に繋げていく。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（地域生活基盤施設）（国土交通省）（令和５年度～令和９年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和７年度に基本設計を行い、５棟の客室の他に、広場やレストランなど地域に開かれた場を配置する計画となった。
事業の今後について	令和８年度に実施設計、令和９年度の改修工事の着手を予定している。

③. 中町小路楽蔵活用促進事業（（株）楽市白河）【実施中】

事業実施期間	平成２６年度～
事業概要	商業施設「楽蔵（らくら）」の利用を促進するために、入居テナントや地元商店と連携したイベントやスタンプラリーを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【ビアガーデン来訪者】５００人 ７月にビアガーデンを楽蔵敷地内で開催し、楽蔵内店舗のPR活動のほか、入居テナントと連携したイベントを実施した。
事業の今後について	入居テナント及び地元商店との連携を継続し、イベントやスタンプラリー等の企画を実施することで、「楽蔵」の認知度向上と利用促進を図る。 あわせて、施設を拠点とした回遊性向上の取組を推進し、中心市街地全体の活性化につなげていく。

④. 勧工場跡地と旧脇本陣蔵座敷の空間整備事業（白河市）【済】

事業実施期間	令和４年度～令和７年度
事業概要	明治天皇や新選組が宿泊した等の歴史的由緒を持ち、中心市街地の残る貴重な歴史的資源となっている旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷（歴史的風致形成建造物）について、勧工場跡地の空間と一体的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（高質空間形成施設）（国土交通省）（令和６年度～令和７年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	勧工場跡地を歴史的資源である旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷と一体的に活用するための検討を行った。一方、最近の物価動向等に鑑み、当面の間、まち歩きにも利用できる駐車スペースとした活用することとした。
事業の今後について	勧工場跡地と旧脇本陣蔵座敷がより一層魅力ある施設とな

いて	るよう検討を続ける。
⑤. マイタウン白河活性化事業（(株)楽市白河）【実施中】	
事業実施期間	平成28年度～
事業概要	白河市中心市街地市民交流センター（マイタウン白河）で、定期的にマルシェなどイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【マルシェ出店数】73店 【マルシェ来場者数】3200人 商店街や地域団体と連携しながらイベントを実施し、市民及び来訪者の交流機会の創出に取り組んだ。イベント内容の充実を図りながら、中心市街地の活性化に向けた取組を継続している。
事業の今後について	マルシェをはじめとする各種イベントを定期的に開催し、市民交流の促進と中心市街地の賑わい創出を図る。 また、商店街や地域団体及び行政との連携を強化し、新たな出店者や来場者の獲得につなげることで、中心市街地の持続的な活性化を目指す。
⑥. 中町地所跡地住宅整備事業（(株)白岩工務店）【実施中】	
事業実施期間	令和6年度～令和8年度
事業概要	中町地所跡地に、地上4階建ての集合住宅を整備し、20戸程度を賃貸する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（令和6年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度は建設工事に着手した。なお、本事業の完了により、63人（0.2%）の居住人口の増加と、それに伴う中心市街地の店舗等利用者など歩行者の増加が見込める。
事業の今後について	令和8年度始めに完成する予定である。
⑦. 郭内地区共同住宅整備事業（敦記念 田口病院）【実施中】	
事業実施期間	令和7年度～令和9年度
事業概要	田口病院跡地に、地上3階建ての集合住宅（1階は医療施設）を整備し、10戸程度を賃貸する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（令和8年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度は事業者と地権者の間で土地の利用や事業計画について整理を行った。なお、本事業の完了により、25人（0.1%）の居住人口の増加と、それに伴う中心市街地の店舗等利用者など歩行者の増加が見込める。

事業の今後について	令和9年の着工に向けて、事業者と密に連携を取りながら、計画を進めていく。
-----------	--------------------------------------

⑧. 商店街活性化事業（白河商工会議所）【実施中】

事業実施期間	令和4年度～
事業概要	商店街への人の流れを生み出し、中心市街地の賑わいを創出するため消費者の購買行動の動機付けや消費喚起を促す事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【夏イベント来場者】20,000人 【スタンプラリー参加者】471人 地元商店街の店舗が多く参加する「夏のしらかわ魂 2025」、及び「レシートラリー」を開催することにより、中心市街地の店舗のPRを図った。
事業の今後について	商店街の活性化につながることから、引き続き事業を継続していく。

⑨. シェアサイクル推進事業（実証実験）（白河市）【実施中】

事業実施期間	平成19年～
事業概要	公共交通を補完し、環境への負荷を低減するシェアサイクルの実現に向けた社会実験を行う。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（まちづくり活動支援事業）（国土交通省）（令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	シェアサイクル実現の可能性について検討を行った。
事業の今後について	引き続き、シェアサイクル実現の可能性及び、それに向けた社会実験の実行に向けて検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度は前年に比べて、約33%増となる738人の増加となった。これは令和4年度の基準値の1.5倍となる。今後、令和8年度に「中町地所跡地住宅整備事業」が完了することや、令和9年度に「複合施設整備事業」や「郭内地区共同住宅整備事業」の完了が見込まれることから、より居住人口及び歩行者の増加が見込まれる。

しかしながら、平日歩行者通行量に関する目標値と実績値に乖離がある状況にあるため、商店の活性化を促し、今後完成する小峰城の清水門や複合施設のほか、蔵をはじめとする歴史的建造物など回遊性の高い施設を有効的に結びつけ、日常的に歩きたくなるまちづくりを進めていく必要がある。